

り下山、須走甲州屋へ一泊。三日、御殿場吉島屋に一泊。一泊毎に各處にて親教せられたるか、各信徒は何れも熱心なる信仰を以て傾聴せしと。四日、御殿場二番列車にて御歸京。此日歡迎の人々には宮崎、石丸、龜井、山崎、田中、安藤、村田、森金、前西、小松、玉井の十一教正府下信徒大塚、城原の二總代、山崎教正の婦氏一人、及び本館の柴田幹事、淺沼取締、田中隨行員、圓城寺、加藤、小野、香月の諸子にて。隨伴の人々には、本館よりの出迎入渡邊勝屋の二教正、遠州の柴田教長、駿州の大石教長、下總の栗田教長、及び初見、中島の二子なりし。

●神道教師俱樂部起る 本月十一日を以て、本教の渡邊、田中、山崎、村田、安藤、中村、小松、森金、高宮、青木の十教正は、本館に會し、神道教師俱樂部設立の件に就て決議せり。其目的とする所は八管長以外に立ち、潔教師の一團體を組織し、偽神道の弊風を革新するにあり。諸子は現在神道勃興の氣運に乗じて、一人の舊前直往の勇氣あるものなきを慨嘆するの餘、愈々教師俱樂部の必要に迫まられて本日(今日)の集會を促しぬ。本館は之に同情を表すると共に些も踴躍蹉跎なく邁かに目的の進行せんを望むものなり。同俱樂部は、

當分淺草區西島越町三番地村田教正宅に假事務所を設置する都合なりと

●教會所允可 長崎縣長崎市八百屋町四拾番地、本教直轄三等惠美須教會は、設立の手續を了したるに付、本月十二日、本教教會簿に登録せられたり。

●海水浴 柴田幹事は去十二日、本館夫人及息女は去十九日、同く相州鶴沼の海水浴に赴く

特別寄書

寶祚之隆

内藤 耻叟

隆とは、至強、至大、至盛、至高の名にして、隆穹といひ、隆昌といひ、屋隆といひ、山隆といふの類、何れも其の至極を窮め盡したるの名なり、是れ其の少しも虧くること無きの謂にして、若し其の至りを極めされば、之を隆と云ふべからず、然るに天祖の國を天孫に傳へしめられむとて、其の最重最精なる詔語に寶祚之隆と宣はせられたる、其の隆なる一字には實に盡深無量の意義あらせらるゝ者と察し奉るべし、そも唯に寶祚天壤と窮まりなしとは宣はせられすし